令和６(202４)年度足利市生涯学習奨励賞候補者推薦書

令和6(2024)年　　月　　日

足　利　市　長　あて

推薦者 住所

氏名

電話番号

|  |  |
| --- | --- |
| ふ り が な  **候 補 者 名**  （個人　又は　団体名） |  |
| 住　　　　　所  電 話 番 号 | ℡　（　　　　　） |
| （団体の場合）  ふ　り　が　な  代　表　者　名 |  |
| 推　薦　理　由 |  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
| 主な活動内容 |  |
|  |
|  |
| 主な活動場所 |  |
|  |
|  |

**候補者の概要**

１　活動実績

（１）活動歴

（２）活動のきっかけ、活動を始めた理由

（３）活動実績

（４）今後の活動方針

（５）会員の推移（団体の場合）

結成時　　　　　　人　（S・H　 　　 年　　　月　　　日）

３年後　　　　　　人　（S・H　　　　 年　　　月　　　日）

５年後　　　　　　人　（S・H　　　　 年　　　月　　　日）

８年後　　　　　　人　（S・H・R 年　　　月　　　日）

１０年後　　　　　　人　（S・H・R 年　　　月　　　日）

１５年後　　　　　　人　（S・H・R 年　　　月　　　日）

２０年後　　　　　　人　（S・H・R 年　　　月　　　日）

現　在　　　　　　人　（S・H・R 年　　　月　　　日）

２　指導者の氏名（団体の場合）

３　会員の構成（団体の場合）

４　社会貢献度

（個人・団体内の活動にとどまらず、ボランティア活動など外に向けた活動がある

場合、その具体的内容をお書きください。）

５　「足利市の教育目標」との関連

（別紙を参考に、活動内容に適合すると思われる**「教育目標の番号」１～７０番の中であてはまる**

**番号をお書きください。（複数可）**できればその理由も合わせてお書きください。）

|  |  |
| --- | --- |
| 教育目標  番号 | 該当理由 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

**＊その他の参考事項**

（会則、名簿、活動記録・写真、収支決算書、会報等の参考資料をできるだけ、提出してください。）

**足　利　市　の　教　育　目　標**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **教育目標の柱** | **教　育　目　標**  ※「生涯学習奨励賞候補者推薦書」の「候補者の概要」の  「５ 足利市の教育目標との関連」については、以下の  １～70の当てはまる番号全てを選んで記入してください。 | **人　生　各　期** | | | | | | |
| 乳幼児期 | 児童期 | 青年前期 | 青年後期 | 壮年前期 | 壮年後期 | 高齢期 |
| 1 郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興 | 1 郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努める。  2 動植物を愛し、自然に親しむ豊かな心を養う。  3 自然を敬い、感謝の気持ちを育てる宗教心を養う。 |  |  |  |  |  |  |  |
| 2 健康・安全の保持増進 | 4 いろいろな運動を楽しみ、健全な心身を養う。  5 スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。  6 スポーツ、レクリエーションに親しみ、健康の増進に努める。  7 健康・安全に必要な基本的生活習慣や態度を身につける。  8 交通安全など健康・安全に配慮した適切な生活習慣や態度を身につける。  9 健康・安全な生活環境づくりに努める。  10 子どもの健康・安全な生活態度を育てる。  11 健康・安全と体力の保持に努める。 |  |  |  |  |  |  |  |
| 3 社会連帯感の　育成 | 12 日常生活の中で、社会的に望ましい習慣や態度を身につける。  13 社会の一員としての自覚をもち、社会的態度を身につける。  14 個人または団体の利害だけにとらわれず、全体との調和を図っていくことができる。  15 社会の一員としての役割を自覚し、責任ある行動をとる。  16 地域の集団活動に積極的に参加し、自らの役割を果たす。  17 時間を大切にし、有効に活用する。  18 友達と互いに協力し合うことができる。  19 相手の立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。  20 友情の尊さを理解し、友達との交際の仕方を身につける。  21 自分と異なる信条・宗教・主張などを理解し、広い心で接することができる。  22 若い人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。  23 日常生活の中で善悪の区別がつけられる。  24 自他の生命を尊重するなど道徳的な態度を身につけ、実践することが　できる。  25 子どもに日常生活の中で善悪の区別がつけられるようにする。  26 友達の気持ちを考えて、仲よく遊べる態度を身につける。  27 よりよい仲間づくりをするために、不合理な差別や偏見をもたないで生活することができる。  28 同和問題をはじめ人権問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない民主的な人間関係をつくることに努める。  29 同和問題をはじめ、人権問題を正しく認識し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。  30 奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。  31 奉仕を通して生きがいがもてる。 |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 教育目標の柱 | 教　育　目　標 | 人　生　各　期 | | | | | | |
| 乳幼児期 | 児童期 | 青年前期 | 青年後期 | 壮年前期 | 壮年後期 | 高齢期 |
| 4 よき家庭人の　育成 | 32 敬老の精神を身につけ実践する。  33 子どもに敬老の精神を育てる。  34 男女が協力して、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。  35 男女が互いの人格を認め合い、望ましい交際の仕方を身につける。  36 結婚の意義を理解し、健全な家庭生活を営む態度を身につける。  37 性について正しい理解と認識をもち、家庭において指導することができる。  38 家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。  39 家庭や地域で行う行事に積極的に参加する。  40 よい家風を受け継ぎ、さらに新しい家風をつくりあげていくことができる。  41 人格の基本となる望ましい性格を身につける。  42 子どもの人格の基本となる望ましい性格を育てる。 |  |  |  |  |  |  |  |
| 5 よき職業人の　育成 | 43 職業人として自己研修にたえず努める。  44 職業人としての専門的技能や資格を身につける。  45 職業を通して生きがいがもてる。  46 勤労の尊さを理解し実践する。  47 正しい職業観に立ち、自分に合った職業を選択するための能力を身につける。  48 自分の仕事について家族に理解させる。  49 仕事では、身につけた知識や技能を生かし生きがいをもつことができる。  50 環境保全並びに資源の開発、有効活用を図り、産業の発展に努める。 |  |  |  |  |  |  |  |
| 6 主体的な生活　態度の育成 | 51 身近な事物現象に興味・関心をもつ。  52 基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。  53 基本的な生活行動を自分の力で進んで行う態度を身につける。  54 基本的な生活習慣を身につけ、自ら考え正しく判断し行動することができる。  55 日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。  56 社会の変化に対応するため、つねに学習し創意工夫に努め、その成果や経験を積極的に活かすことができる。  57 高齢者としての技能や経験を積極的に生かすことができる。  58 自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。  59 困難にくじけず、ねばり強くやり遂げる態度を身につける。  60 将来を見通して計画的な生活をする。  61 ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。  62 余暇を有効に過ごす。  63 進んで計画的に余暇を活用する。  64 身のまわりの情報を整理し、適切に活用する能力を身につける。  65 情報を的確にとらえ、自ら正しく判断し、活用できる。  66 高齢者としての役割を認識し、情報を若い人たちに伝えることができる。 |  |  |  |  |  |  |  |
| 7 国際社会に生きる日本人としての自覚 | 67 日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。  68 日本に対する愛情を深めるとともに、世界的視野に立って広く考えることができる。  69 国際社会における郷土の産業の果たす役割を正しく理解できる。  70 国際感覚の上に立って、生き方を考えることができる。 |  |  |  |  |  |  |  |